

『原三溪翁伝』第2篇第6章を読み進めました

10月の定例研究会は『原三溪翁伝』輪読を進めました。

◆例会（14:00～）

- ・新会員1名が紹介されました。
- ・会報に掲載する記事の募集を始めました。
- ・特集で三溪園を取り上げている雑誌が紹介されました。

神奈川新聞社発行『横濱』2010年秋号 Vol.30 特集「三溪園 名園の魅力と原三溪をめぐる人々」

◆輪読

発表者：藤嶋俊會

範囲：第2篇第6章「三溪園」（pp. 415～456）

第4節 不朽の豪華桃山殿

第5節 三溪園の社会的貢献

第6節 三溪園の国際的価値



また、前回質問があった「臨春閣はもともと瓦葺だったのか？ それにしては柱が細い」について、藤嶋さんから解説がありました。文献によれば、確かに柱が細く見えるが、大きな桁を隠して細く軽い化粧に見せる仕事があり、現在は屋根が^{ひわだぶき}桧皮葺で^{こけらぶき}庇が柿葺になっているこの建物が大阪の春日出新田にあったころは本瓦葺だったことが分かるのだそうです。

質疑応答では、なぜ三溪園は第二次世界大戦時に爆撃を受けたかという質問に対し、隣接する高射砲陣地が狙われたため誤って爆撃されたという言説があるほか、会員から爆撃されたのではなくて高射砲陣地からの爆風が三溪園に飛んできたものだという説が紹介されました。



次回は顧問の内海先生にご講演をいただきます。